

ジャンル	子ども・教育 日本語学習 医療・福祉 労働 災害対策	意識啓発 地域づくり	推進体制の 整備	その他
事業名	東日本大震災の多言語記録集・いわて生活ガイド集の作成及び在住外国人へのオリエンテーション			
団体名	公益財団法人岩手県国際交流協会			

***** 事業のポイント *****

東日本大震災の記録集は、写真を多用し、見て震災・津波の大きさを理解できるように作成した。
県内在住外国人が当時、どのように考え行動したか聞き取りを行うことで被災者というひとくくりでない実態を伝える記録とした。

助成年度	平成 24 年度地域国際化施策支援特別対策事業	事業総額	1,615千円
------	-------------------------	------	---------

事業の内容、成果等

1 事業実施の背景

東日本大震災津波では、岩手県でも在住外国人の被害者や被災者が出たことから、外国人・日本人の枠を超え、地域でのつながりの重要性を考える機会となった。

今後、このような災害時に犠牲者を出さないためにも、在住外国人向けに今回の震災津波について写真と共に記録として残しておく必要がある。しかし、日本語での震災津波の写真集などの記録集は数多く出版されているが、多言語によるものはない。また、県外、海外から支援に来た外国人については新聞などメディアなどでも取り上げられることがあるが、県内在住の外国人の被災時の状況については取り上げられているものが少ない。

2 事業の目的

東日本大震災津波の多言語記録集・いわて生活ガイド集を作成し、災害時における心構えを含め、被災の状況を記録として後世に伝える。また、在住外国人へのオリエンテーションを実施し、防災に係る情報提供及び啓発を進める。

3 事業内容

① 東日本大震災津波の多言語記録集・いわて生活ガイド集の作成

作成した多言語記録集は、県内外の321か所(県内市町村、市町村国際交流協会、日本語教室、国際交流関係団体、大学、大学付属図書館、図書館等)や在住外国人等へ配布した。

なお、作成にあたり、以下の反省点が挙げられる。

・震災時の写真収集について

在住外国人が撮影したものも含め震災津波の写真を収集し、より多くの在住外国人も含めた地域住民の目線のものとしたかったが、残念ながら当協会では直接集めることはできなかった。また、被災した市町村へも写真提供をお願いしたが、役場も被災した山田町、大槌町、陸前高田市は写真が全くないとのことで、地元新聞社からの写真を使用することとなった。このため、Web掲載は二次掲載となるため、更に経費がかかるので公開できずにいる。

・被災地の在住外国人からのインタビューについて

被災地の在住外国人が当時どのように行動したか、なぜそのように行動したか、そして今の状況を聞き取ることを目標として、インタビューを行った。

被災地の市町村や国際交流協会、日本語サポーター等を通じて、インタビューに協力してくださる在住外国人を探した

が、残念ながら全ての被災市町村からは協力者を得ることはできなかった。震災前から在住外国人との接点が薄い役場や国際交流協会では、震災後も「被災していない“らしい”」、「困っているとの情報は“聞いていない”」と憶測の域を出ずに人的つながりが取れずに終わってしまったケースがあった。また、間接的にはコンタクトが取れたが「津波を思い出したくない」、「外国人と特別に扱われたくない」としてインタビューを断られたケースもあった。

また、インタビューに協力していただいた被災者である在住外国人は、それぞれに深くつらい体験があったにもかかわらずお話していただいたが、紙面の関係で話の内容を割愛しなければならなかった点は大きな反省としてある。

② 在住外国人へのオリエンテーションの実施

県内6市町で、総勢55名のニューカマーも含めた在住外国人へ災害時における心構えも含めた生活オリエンテーションを実施した。

来日したばかりの中国人実習生を対象に行ったとき以外は、震災を体験した在住外国人が必ず含まれていたため、その方々の体験もシェアしながら、各地域でどんな状況だったかをリアルに学ぶ機会を設けることができた。